

武蔵野市生きる力を育む幼児教育振興検討会議

中間報告書

(素案)

令和 3 年 8 月

目次

はじめに	1
幼稚園、保育園、認定こども園の比較	2
アンケートの実施	3
＜幼稚園・保育園・認定こども園向けアンケート＞	3
＜小学校向けアンケート＞	4
武蔵野市の幼児教育に関する検討課題	5
生きる力を育む幼児教育の考え方と実践に向けた取組みの方向性	7
＜生きる力を育む幼児教育の考え方＞	7
＜生きる力を育む幼児教育の実践に向けた取組みの方向性＞	9
参考資料	11
＜設置要領＞	11
＜武蔵野市生きる力を育む幼児教育振興検討会議委員＞	12
＜会議等の日程・内容＞	12
＜アンケート内容＞	13

はじめに

本市では、平成 24 年度に武蔵野市幼児教育振興研究委員会が設置され、同委員会の報告書（「子どもたちの望ましい発達を保障する幼児期の教育の充実を目指して」）において、幼児期の教育の意義、遊びを通じた学びの重要性、施設・家庭・地域の役割等が示された。

その後、市立境幼稚園の発展的解消と境こども園（認定こども園）の開設（平成 25 年度）、武蔵野市第六期長期計画（令和 2 年度～11 年度）、第五次子どもプラン武蔵野（令和 2 年度～6 年度）において、生きる力を育む幼児教育の振興が今後の取組みとして位置付けられるなど、本市の幼児教育の状況も変化しつつある。

全国的な動きに目を向けると、子ども・子育て支援新制度の開始（平成 27 年度）、幼児教育・保育の無償化の開始（令和元年度）といった制度改正が行われるとともに、平成 30 年 3 月に「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が同時に改訂され、幼児教育に関して各要領、指針の中に「育みたい資質・能力」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共通の記載がなされたところである。

また、令和 2 年度から全面実施となった現行の学習指導要領（文部科学省）において、「知（確かな学力）」、「徳（豊かな人間性）」、「健やかな体（健康・体力）」のバランスの取れた「生きる力」を育むことを目指すにあたっては、各教科等の指導を通して、「知識及び技能」の習得と「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養という 3 つの柱となる資質・能力を育成することとされ、また、その育成にあたっては、主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の必要性が示された。

こうした流れの中、幼児教育の担い手である幼稚園、保育園、認定こども園において、子どもたちの生きる力を育むために、市全体でどのように幼児教育について共通理解を持ち、実践につなげるか、また小学校教育とのより円滑な接続をどのように担保するかが課題となっている。

本報告書は、令和 2 年度から令和 3 年度にかけて設置された、幼児教育に係る有識者、幼稚園・保育園・認定こども園の施設長、市の所管部署の職員による「武蔵野市生きる力を育む幼児教育振興検討会議」において、これらの課題を検討し、武蔵野市として進める「生きる力を育む幼児教育」の基本的な考え方、具体的な取組みの方向性について議論した結果をまとめたものである。

* 平成 20 年 1 月中央教育審議会答申では、生きる力について「変化が激しく、新しい未知の課題に試行錯誤しながらも対応することが求められる複雑で難しい次代を担う子供たちにとって、将来の職業や生活を見通して、社会において自立的に生きるために必要とされる力」としている。

幼稚園、保育園、認定こども園の比較

幼稚園、保育園、認定こども園はいずれも幼児教育を行う施設として位置づけられているが、制度上、目的、対象となる児童、根拠法令等において違いがある。幼児教育について考える前提として、各施設について比較する。

	幼稚園	保育園（認可保育所）	認定こども園
目的	義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長する（学校教育法第 22 条）	保育を必要とする乳児・幼児を日々保護者の下から通わせて保育を行う（児福法第 39 条）	幼稚園的と保育所の両方の機能を合わせて持つ施設において、小学校就学前の子供の教育・保育、子育て支援を一体的に提供する（幼保連携型認定こども園の場合）
対象となる児童	満 3 歳から小学校就学の始期に達するまでの幼児（学教法第 26 条） * 子ども・子育て支援新制度における 1 号認定（教育標準時間認定・満 3 歳～5 歳）	保育を必要とする児童（0 歳～5 歳） * 子ども・子育て支援新制度における 2 号認定（0 歳～2 歳）、3 号認定（3 歳～5 歳）	0 歳～5 歳児 * 子ども・子育て支援新制度における 1 号認定（満 3 歳～5 歳）、2 号認定（0 歳～2 歳）、3 号認定（3 歳～5 歳） * 境こども園では 1 号認定のうち 4 歳～5 歳が対象）
教育・保育時間	4 時間（標準） * 施設によって教育時間後に預かり保育を実施	8 時間（保育短時間） 11 時間（保育標準時間）	4 時間（1 号認定の場合） 8 時間（2 号認定、3 号認定で保育短時間の場合） 11 時間（2 号認定、3 号認定で保育標準時間の場合）
教員・保育者の資格	幼稚園教諭	保育士	原則、幼稚園教諭及び保育士の両方
根拠法令	学校教育法	児童福祉法	就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律
要領・指針	幼稚園教育要領	保育所保育指針	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
所管官庁	文部科学省	厚生労働省	内閣府（文部科学省、厚生労働省）
補足	利用は保護者と施設との契約による	保育を必要とする要件（保護者の就労等）に該当することが必要 市の利用調整を経て利用が決定 武蔵野市では「武蔵野市保育のガイドライン」により市として必要な保育の水準を示している	幼保連携型（幼稚園の機能と保育園の機能の両方を持つ施設）幼稚園型（幼稚園に保育園の機能を付加した施設）、保育所型（認可保育所に幼稚園の機能を付加した施設）、地方裁量型（幼稚園でも認可保育所でもない施設で認定こども園として必要な機能を満たしていると認められた施設）の 4 類型がある
市内の施設数	12 園（全て私立）	34 園（認可保育所） 市立 4 園・武蔵野市子ども協会立 6 園・それ以外 24 園	1 園（保育園型認定こども園・武蔵野市子ども協会立）

* 武蔵野市子ども協会 武蔵野市全域の子ども育成活動全般を横断的、効率的、包括的に支える機関として、安心して子どもを産み育てることができる環境づくり、育児等における子育ての支援を行い、地域と協働した子育てや子どもの育成活動を促進し、活力ある地域社会の形成に寄与することを目的にした団体。平成 4 年に任意団体として設立され、財団法人を経て平成 23 年に公益財団法人に移行。武蔵野市との連携・協力のもと、認可保育園・認定こども園、子育て支援施設（0 1 2 3 施設）、地域子ども館を運営している。

アンケートの実施

本会議における議論の参考とするため、幼稚園・保育園・認定こども園、小学校を対象にそれぞれ以下のとおりアンケートを実施した。

< 幼稚園・保育園・認定こども園向けアンケート >

対象 武蔵野市内の幼稚園（12 園）、認可保育所及び認定こども園（35 園）

内容 参考資料に掲載の「幼稚園・保育園・認定こども園向けアンケート」を参照

実施期間 令和 3 年 3 月 26 日（金）から 4 月 12 日（月）まで

回答率 市内認可保育所および保育所型認定こども園 21 園/35 園（60％）

市内私立幼稚園 6/12 園（50％）

回答結果（概要）

1 貴園の園目標を教えてください。	
2 子どもの「生きる力」を育むための幼児教育についての貴園の考え方を教えてください。	
3 上記 1、2 に基づいてどのような実践、取組みを行っているか教えてください。	
4 上記 1、2 について保護者の理解を得るための取組みを教えてください。	
5 「生きる力」を育む幼児教育を実践するにあたっての課題を教えてください。	集計中
6 小学校教育との円滑な接続に向けて近隣の小学校における児童と幼児との交流活動を行っていますか。また、その内容を具体的に教えてください。	
7 小学校教育との円滑な接続に向けて近隣の小学校と職員間の意見交換など何か連携活動を行っていますか。また、具体的に内容を教えてください。	
8 幼児教育と小学校教育の円滑な接続を目指した連携を行う上での課題を教えてください。	

< 小学校向けアンケート >

対象 武蔵野市立小学校（12 校）

内容 参考資料に掲載の「小学校向けアンケート」を参照

実施期間 令和 3 年 3 月 26 日（金）から 4 月 12 日（月）まで

回答率 9/12 校（75%）

回答結果（概要）

1 子どもの「生きる力」を育むために幼児教育に期待していることは何かを教えてください。	
2 幼児教育との円滑な接続に向けて近隣の幼稚園・保育園、認定こども園における幼児と児童との交流活動を行っていますか。また、その内容を具体的に教えてください。	集計中
3 幼児教育との円滑な接続に向けて近隣の幼稚園・保育園、認定こども園と教職員間の意見交換など何か連携活動を行っていますか。また、具体的に内容を教えてください。	
4 幼児教育と小学校教育の円滑な接続を目指した連携を行う上での課題を教えてください。	

武蔵野市の幼児教育に関する検討課題

■課題 1 生きる力を育む幼児教育についてどのように考えるか

- 幼稚園、保育園、認定こども園はそれぞれ幼児教育を行う施設として位置付けられており、平成 30 年度には幼稚園教育要領、保育所保育指針等で幼児教育に関する共通の記載がなされたところであるが、現状において幼児教育に関する理解、考え方について各園で違いがあるため、武蔵野市として目指す幼児教育の姿を共有することが求められる。
- 武蔵野市第六期長期計画、第 5 次子どもプラン武蔵野において「生きる力を育む幼児教育」の推進が掲げられる中、今後、市全体でこの取り組みを進めていくには、各施設における理念や取組みの独自性を尊重する一方で、幼稚園、保育園、認定こども園という施設の枠組みにとらわれずに、生きる力を育むという観点から幼児教育をどのように捉えるか、検討する必要がある。

【武蔵野市第六期長期計画（令和 2 年度～11 年度）】

基本施策 4 子どもの「生きる力」を育む

子どもは、様々な環境と関わり、経験を積み重ねることで、身近な社会生活、生命及び自然に対する興味が養われ、「生きる力」を身に付ける。

子どもの多様性を尊重するとともに、子ども自身が遊びや体験を含めた様々な学びにより、自ら課題に気づき他者と協働しながら課題を解決していく力など、新しい時代に必要となる資質・能力や、個に応じた自信と生涯にわたって続く学ぶ意欲を育むよう、多様な施策を推進する。また、子ども一人ひとりの教育的ニーズに対応するため、指導及び相談支援の体制を充実させる。

(1)生きる力を育む幼児教育の振興

幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う大切な時期である。幼稚園、保育所、認定こども園など幼児教育の担い手は、研修等で互いに連携しつつ、保育者の資質・専門性を向上させ、幼児期の子ども各人の個性に応じた発達を支える取組みを行う。また、幼児教育及び子育て支援事業の向上などのために、私立幼稚園に支援を行う。

【第五次子どもプラン武蔵野（令和 2 年度～6 年度）】

計画の基本理念

(4)子どもの「生きる力」を育む

子どもは、様々な環境と関わり、経験を積み重ねることで、身近な社会生活、生命及び自然に対する興味が養われ、「生きる力」を身に付けます。子どもが、遊びや体験を含めた様々な学びにより、新しい時代に必要となる資質・能力を育み、自ら課題に気づき、他者と協働しながら課題を解決していく力を身に付けられるよう、多様な施策を推進します。

「生きる力」を育む幼児教育の振興

<現状と課題>

幼児教育の担い手である、幼稚園、保育所、認定こども園は、それぞれに質の高い教育・保育を実施しています。その上で、社会との関わりや体験活動等の「生きる力」を育むことがより一層求められています。

幼児期の子どもの個性に応じた発達を支え、幼児期の教育をより充実したものにするためには、幼稚園、保育所、認定こども園の相互理解と連携強化が必要と考えられます。また、学童期への円滑な接続のための仕組みを検討する必要があります。

■課題 2 生きる力を育む幼児教育についての考え方、実践方法をどのように共有するか

- これまで幼稚園間または保育園間での意見交換等は定期に行われてきたが、それぞれの幼稚園、保育園の枠組みを超えての交流、情報交換はほとんど行われてこなかった。
- 幼児教育を行う機関として位置づけられている幼稚園、保育園、認定こども園が生きる力を育む幼児教育についての基本的な考え方を共有し、他施設を参考にしながら自園における実践方法について振り返るなどの取組みを各施設で進めるには、施設の類型にとらわれない、連携の場が必要になると考えられる。

■課題 3 幼児教育と小学校教育をどのように円滑に接続するか

- 幼児教育は生活や遊びを通して総合的に行われるのに対し、小学校教育は各教科等の目標、内容に沿って行われるなど、教育内容や指導方法の面で両者に違いはあるが、本来、子どもの発達や学びは連続的なものである。
- 幼稚園、保育園、認定こども園と小学校の間で互いの教育（幼児教育、小学校教育）に対する理解や情報の共有が必ずしも十分でないといった意見がある中、幼児教育から小学校教育への移行をより円滑にするために、保育者、教師がそれぞれの考え方や取組みを知り、両教育の連続性を確保するために、双方向的なアプローチの仕組みについて検討する必要がある。

生きる力を育む幼児教育の考え方と実践に向けた取組みの方向性

< 生きる力を育む幼児教育の考え方 >

■ 安心感、自己肯定感、他者への信頼感が子どもの成長の基礎になる

- 人生の基礎を培う乳幼児期において、子どもは大人との愛着の形成による安心感、ありのままの自分でいいという自己肯定感、他者への信頼感を土台にして、身近な人や物などの環境との関りを深める中で心情、意欲、態度を身につけていくとともに、基本的な生活習慣を獲得していく。
- 幼児教育において、安心感、自己肯定感、他者への信頼感が重要な基礎となることから、保育者は受容的、応答的に子どもに関わりながら、子どもが自分の思いを表し、身近な人や物への興味を持ち、自発的な関りを深めていけるように配慮する必要がある。

■ 生きる力の基礎が育まれるよう環境を構成する

- グローバル化、急速な情報化等を背景に、価値観の多様化が進み、社会の不確実性、複雑性が高まる中、今後さらに変化が激しく、予測の困難な時代に入っていくと考えられる。
- 子どもたちが将来こうした時代を生きていく上で、自ら課題を発見し、多様な観点から考察しながら、他者と協働して課題を解決することが必要であり、「21 世紀型スキル」に代表されるような、将来を生きるための多面に渡る能力の基礎を幼児期に育むことが求められる。
- そのため、幼児教育においては、幼稚園教育要領、保育所保育指針にある 5 領域（「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」）に示されているねらいに向けて、総合的な体験が積み重ねられるよう環境の構成に配慮することが重要になる。

21 世紀型スキル

変化の激しいグローバル社会に必要とされる資質能力のことで、認知能力、対人関係能力、人格特性、態度といった多面的な力が総合的に働き、個人の人生の成功と社会の持続的発展に貢献できる能力

「健康」 健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。

「人間関係」 他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。

「環境」 周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。

「言葉」 経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。

「表現」 感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

■ 遊びを通した学びの循環を大切にする

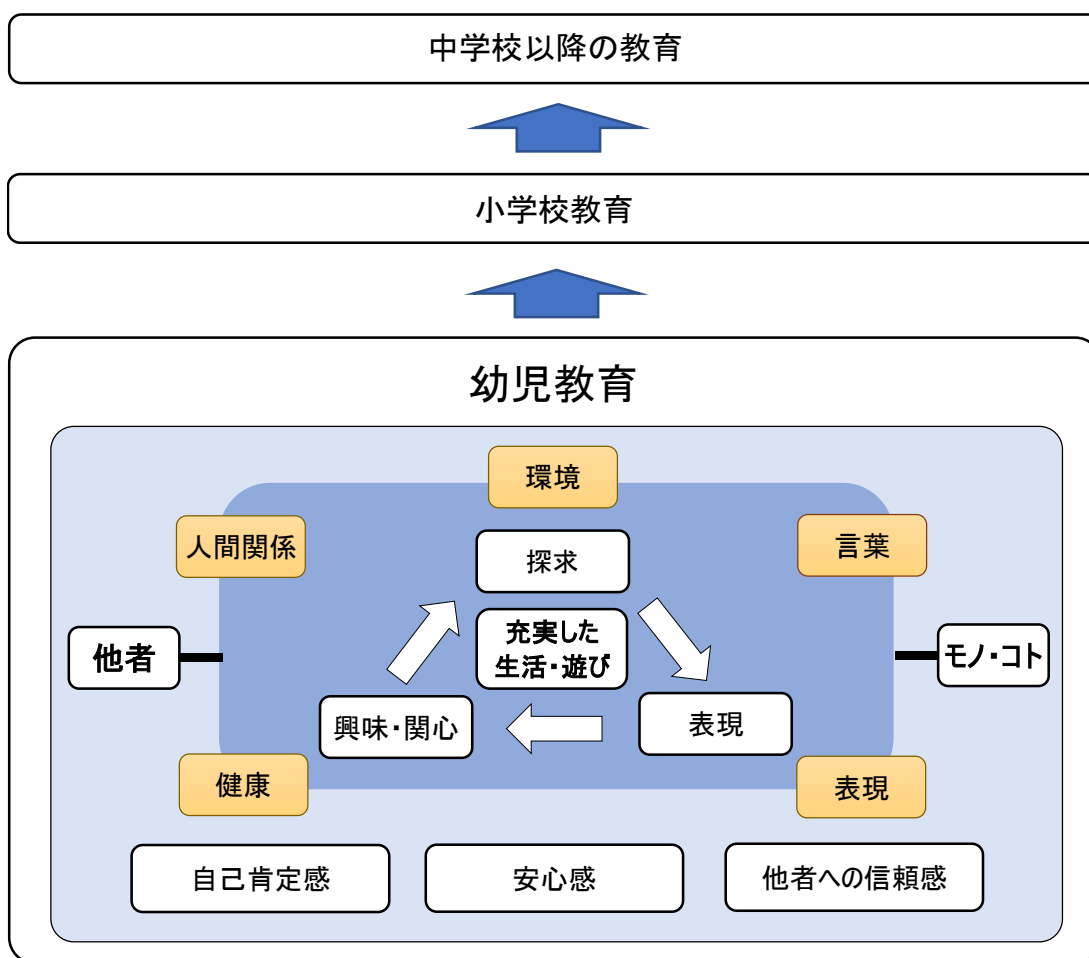
- 遊びは子どもが身近な環境に興味関心を持つ中で生み出されるものであり、子どもの自発性によって展開されていく。自発性は面白い、楽しいという情動と分かちがたく、それが原動力となって遊びがさらに面白く、楽しくなるように子どもはモノやコトや人に関わっていく。関わりが深まることで遊びの面白さは増し、子どもの興味、関心はさらに高まるという循環を生み、深い充実感と、結果として汎用可能な知識や技能をもたらされる。すなわち、幼児期

の遊びは主体的で、対話的な、深い学びを保障するものである。

- 幼児教育の中でこうした遊びを通した学びの循環が生まれるよう、子どもたちが興味、関心を持ち、それが広がり、深まっていくよう環境を総合的に構成することが大切である。

■幼児教育、小学校教育、その後の教育を連続的に考える

- 子どもの絶え間ない成長が保障されるためには、小学校教育、中学校教育及びその後の教育までを見据えながら、それぞれの教育が互いに関連性を持ち、全体が連続的なものとなることが望ましい。
- そうした観点のもと、最初の接続として、幼児教育と小学校教育の有機的な結びつきを確保していくことが、生涯に渡る生きる力を身につける上で非常に重要な意味を持つといえる。



< 生きる力を育む幼児教育の実践に向けた取組みの方向性 >

■ 幼稚園・保育園・認定こども園の情報共有の場の設定（横の軸の連携）

- 生きる力を育む幼児教育を進めるには、そのベースとして市全体でその基本的な考え方を共有していくことが必要であり、それには定期的に教員、保育者が交流し、意見交換を行う、情報共有の場（水平的な連携）を設けることが有効であると考えられる。

生きる力を育むために大切にしていること - 協力園の視察から -

- ✓ 保育者との信頼関係を土台に子ども同士のかかわりを広げ、自分の思いを表現し、友達の気持ちを受け入れる経験を重ねることで、人とかかわる力を育んでいる。
- ✓ 全ての子どもが一緒に生活や遊びを楽しめるような環境をつくる。子どもも保護者も違いを認め合い、つながれるようにしている。

地域とのつながり - 協力園の視察から -

- ✓ 園行事に老人クラブを招待する、老人ホームへ園児が訪問するほか、コミュニティセンターでの文化祭に園児の作品を展示するなど、日頃から地域との交流を大切にしている。

- この情報共有の場において、武蔵野市における考え方を確認し、他園の事例を知ることで、保育者等がその知識を自園に持ち帰り、実践に結び付けることが可能となる。また、そうした場で幅広い知見を得ることによって教員、保育者の意欲や資質の向上も図られる。

- こうした取組みが広がる中で、発達の気になる子どものへの支援のあり方についても共有され、将来的に市全体でインクルーシブ教育が充実していくことについても期待される。

インクルーシブ教育で大切にしていること - 協力園の視察から -

- ✓ 園児が自分も友達も好きになり、自分と色々な友達の違いを尊重できるようにしている。
- ✓ 全ての子どもが、どのようにすればみんな楽しく、幸せになるかを考えることを重視している。
- ✓ ありのままの自分を受け止められながらも、頑張ろうとする心情も大切にして、できるようになる喜びを味わい自己肯定感を得られるようにしている。

■ 幼児教育と小学校教育の接続の仕組みの整備（縦の軸の連携）

- 幼稚園、保育園、認定こども園の幼児教育と小学校教育における内容や指導方法に関する相違点や共通点、幼児期と学童期の子どもの発達段階の特徴等について共通理解を持つことが、円滑な接続を確保するための前提となる。

- その上で、日々の教育における互いの実践を知ることで、子どもの発達や学びの連続性を十分に意識した幼児教育、小学校教育をより一層進めることができる。

- 具体的な方法としては、定期的な意見交換、研究発表の場の設定、地域の幼稚園、保育園等の教員、保育者を招いての授業参観の開催、小学校教師の保育現場の体験の実施等が考えられる。

- 園児と小学校の児童の交流は互いに良い影響を与え合うと考えられる。例えば、園児にとっては小学校がどのようなところであるか体験することで、小学生へのあこがれを持ち、学校生活への見通しを持つことで入学後の不安が軽減されるといった効果が期待できる。また、小学生の児童にとっては、幼児への接し方を知り、思いやりの心を育めるといった成長の機会を得られる。
- 現行学習指導要領では、スタートカリキュラムが位置付けられ、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活課を中心に合科的・関連的な指導や1コマ45分ではなく、短い時間に区切って設定するなどの工夫を行うことが示されている。
- 武蔵野市教育委員会においては、平成29年3月に「武蔵野市スタートカリキュラム」（小学校入門期指導資料）を作成し各校で実践されているが、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かう力が可能となるよう、幼児期に学んできたことや育ちを引き出すスタートカリキュラムのより一層の充実が求められる。

武蔵野市立境南小学校 「『おとなの』小学校見学・交流会」

- ✓地域の幼稚園、保育園の職員と小学校の教職員との連携を深めるため、「『おとなの』小学校見学・交流会」を小学校主催で実施。
- ✓第1回（令和2年1月）では、参加者による授業参観、同校の教育ビジョンやスタートカリキュラム等の取組みについての情報提供、グループに分かれての協議（保育要録（保育園から小学校へ児童の情報を提供する資料）の活用方法等に関する意見交換）が行われた。
- ✓会を終えて、参加者からは「幼稚園、保育園と小学校の情報共有は必要であり、こうした交流会を続けていきたい」といった感想が聞かれた。



参考資料

< 設置要領 >

武蔵野市生きる力を育む幼児教育振興検討会議設置要領

(設置)

第 1 条 武蔵野市内の幼稚園、保育所、認定こども園で実施している教育・保育の状況を踏まえ、本市の「生きる力」を育む幼児教育に対する考え方、幼稚園、保育園、認定こども園において共通理解を持つための連携の仕組み、幼児教育と小学校教育との円滑な接続を行うための方法等、本市の幼児教育の振興について、幅広い視点から検討するため、武蔵野市生きる力を育む幼児教育振興検討会議（以下「会議」という。）を設置する。

(所管事項)

第 2 条 会議は、次に掲げる事項について、協議及び検討を行い、その結果を市長に報告する。

- (1) 「生きる力」を育む幼児教育の振興に関すること
- (2) 前号の検討に関連する事業及び事務に関すること
- (3) その他市長が必要と認めること

(組織)

第 3 条 会議は、次に掲げる委員 7 人以内をもって構成し、市長が委嘱し、又は任命する。

- (1) 学識経験のある者
- (2) 幼稚園、認可保育所、認定こども園の園長の職にある者
- (3) 子ども家庭部長
- (4) 教育部指導課長
- (5) 前各号に掲げる者のほか、市長が必要と認める者

(座長及び副座長)

第 4 条 会議に座長及び副座長各 1 人を置く。

- 2 座長は委員の互選により選出し、副座長は委員の中から座長が指名する。
- 3 座長は委員会を統括し、会議を代表する。
- 4 副座長は、座長を補佐し、座長に事故があるとき又は座長が欠けたときは、その職務を代理する。

(設置期間)

第 5 条 会議の設置期間は、第 3 条の規定による委嘱又は任命の日から、令和 4 年 3 月 31 日までとする。ただし、市長の決定により、必要に応じて設置期間を延長することができる。

(会議)

第 6 条 会議は、必要に応じて座長が招集する。

- 2 会議は、必要に応じて Web 会議で開催することができる。出席する委員は、武蔵野市 Web 会議システム利用ガイドラインを遵守するものとする。
- 3 座長が必要と認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(事務局)

第 7 条 会議の事務局は、子ども家庭部子ども育成課が行う。

(その他)

第 8 条 この要領に定めるもののほか、会議について必要な事項は、市長が別に定める。

付 則

この要領は、令和 3 年 3 月 5 日から施行する。

< 武蔵野市生きる力を育む幼児教育振興検討会議委員 >

氏名	職等	備考
河邊 貴子（座長）	聖心女子大学教育学科教授 武蔵野市子ども協会評議員	
今福 理博（副座長）	武蔵野大学教育学部幼児教育学科准教授	
加藤 篤彦	武蔵野東第一・第二幼稚園園長 武蔵野市幼稚園連合会会長	
平川 恵津子	ふじの実保育園園長	
矢野 久美	公益財団法人武蔵野市子ども協会 境こども園園長	令和 3 年 3 月 18 日まで
松井 洋子	公益財団法人武蔵野市子ども協会 境こども園園長	令和 3 年 3 月 19 日から
村松 良臣	武蔵野市教育部指導課長	
勝又 隆二	武蔵野市子ども家庭部長	

* 敬称略

< 会議等の日程・内容 >

	開催日	内容
第 1 回	3 月 5 日（金）	座長・副座長の選任、意見交換 等
第 2 回	4 月 22 日（木）	「生きる力」を育む幼児教育に関するアンケートの結果について 等
第 3 回	5 月 24 日（月）	現状の課題と今後の論点について
協力園の 視察	6 月 23 日（水）	武蔵野東第一・第二幼稚園の視察
	6 月 25 日（金）	ふじの実保育園の視察
	7 月 2 日（金）	境こども園の視察
第 4 回	7 月 12 日（月）	視察を終えての意見交換、中間報告書の素案について
第 5 回	月 日（ ）	中間報告書について
パブリック コメント	9 月 15 日（水）～ 9 月 28 日（火）	パブリックコメントの募集
第 6 回	10 月 4 日（月） 予定	パブリックコメントの募集の結果について 最終報告書について

< アンケート内容 >

幼稚園・保育園・認定こども園用

「生きる力」を育む幼児教育に関するアンケート

市では現在、「生きる力を育む幼児教育振興検討会議」において、「生きる力」を育む幼児教育の考え方等、本市の幼児教育のあり方について検討を行っています。つきましては検討の参考にするため、アンケートにご協力をお願いいたします。

< 参考 >

■ 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領では、幼児教育における「生きる力」の重要性が示され、「育みたい資質・能力」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について共通の記載がなされています。（幼稚園教育要領では第 1 章総則第 2）

■ 武蔵野市第六期長期計画（令和 2 年度～令和 11 年度）では、これを受けて子どもの「生きる力」を育むために以下のように施策を行うこととしています。

「基本施策 4 子どもの「生きる力」を育む」

子どもは、様々な環境と関わり、経験を積み重ねることで、身近な社会生活、生命及び自然に対する興味が養われ、「生きる力」を身に付ける。

子どもの多様性を尊重するとともに、子ども自身が遊びや体験を含めた様々な学びにより、自ら課題に気づき他者と協働しながら課題を解決していく力など、新しい時代に必要となる資質・能力や、個に応じた自信と生涯にわたって続く学ぶ意欲を育むよう、多様な施策を推進する。また、子ども一人ひとりの教育的ニーズに対応するため、指導及び相談支援の体制を充実させる。

■ 第五次子どもプラン武蔵野（令和 2 年度～令和 6 年度）では、子どもの「生きる力」を育むために次のように事業を実施することとしています。

「生きる力を育む幼児教育の振興」

遊びの充実、教育環境の整備、安全・安心の確保、特別な配慮を要する子どもや発達の気になる子どもへの教育の充実、保育者の資質・専門性の向上等に取り組む、幼児教育の振興を図ります。

幼児期に、生きる力、自らの人生を切りひらいていく力を身に付けていくことができるよう、幼児教育の担い手である、幼稚園、保育所、認定こども園、家庭や地域と連携しながら、幼児期の子どもの望ましい発達を支える取り組みについて検討していきます。

「幼稚園・保育所・認定こども園・小学校等の連携強化」

幼稚園・保育所・認定こども園の合同研修等を通じた幼児教育の担い手としての連携強化、小学校教員との情報交換等により、幼児期の子どもの望ましい発達を支える取り組みを進めていきます。

幼児期以降の教育への円滑な接続、連携の推進を図り、指導要録及び保育要録の小学校への送付を継続します。

園名

1 貴園の園目標を教えてください。

2 子どもの「生きる力」を育むための幼児教育についての貴園の考え方を教えてください。

3 上記 1、2 に基づいてどのような実践、取組みを行っているか教えてください。

4 上記 1、2 について保護者の理解を得るための取組みを教えてください。

5 「生きる力」を育む幼児教育を実践するにあたっての課題を教えてください。

6 小学校教育との円滑な接続に向けて近隣の小学校における児童と幼児との交流活動を行っていますか。また、その内容を具体的に教えてください。

☐ 定期的に行っている ☐ 不定期に行っている ☐ 行っていない

<具体的な内容>

7 小学校教育との円滑な接続に向けて近隣の小学校と職員間の意見交換など何か連携活動を行っていますか。また、具体的に内容を教えてください。

☐ 定期的に行っている ☐ 不定期に行っている ☐ 行っていない

<具体的な内容>

小学校用

「生きる力」を育む幼児教育に関するアンケート

市では現在、「生きる力を育む幼児教育振興検討会議」において、「生きる力」を育む幼児教育の考え方等、本市の幼児教育のあり方について検討を行っています。つきましては検討の参考にするため、アンケートにご協力をお願いいたします。

< 参考 >

■幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領では、幼児教育における「生きる力」の重要性が示され、「育みたい資質・能力」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について共通の記載がなされています。（幼稚園教育要領では第 1 章総則第 2）

■武蔵野市第六期長期計画（令和 2 年度～令和 11 年度）では、これを受けて子どもの「生きる力」を育むために以下のように施策を行うこととしています。

「基本施策 4 子どもの「生きる力」を育む」

子どもは、様々な環境と関わり、経験を積み重ねることで、身近な社会生活、生命及び自然に対する興味が養われ、「生きる力」を身に付ける。

子どもの多様性を尊重するとともに、子ども自身が遊びや体験を含めた様々な学びにより、自ら課題に気づき他者と協働しながら課題を解決していく力など、新しい時代に必要となる資質・能力や、個に応じた自信と生涯にわたって続く学ぶ意欲を育むよう、多様な施策を推進する。また、子ども一人ひとりの教育的ニーズに対応するため、指導及び相談支援の体制を充実させる。

■第五次子どもプラン武蔵野（令和 2 年度～令和 6 年度）では、子どもの「生きる力」を育むために次のように事業を実施することとしています。

「生きる力を育む幼児教育の振興」

遊びの充実、教育環境の整備、安全・安心の確保、特別な配慮を要する子どもや発達気になる子どもへの教育の充実、保育者の資質・専門性の向上等に取り組む、幼児教育の振興を図ります。

幼児期に、生きる力、自らの人生を切りひらいていく力を身に付けていくことができるよう、幼児教育の担い手である、幼稚園、保育所、認定こども園、家庭や地域と連携しながら、幼児期の子どもの望ましい発達を支える取り組みについて検討していきます。

「幼稚園・保育所・認定こども園・小学校等の連携強化」

幼稚園・保育所・認定こども園の合同研修等を通じた幼児教育の担い手としての連携強化、小学校教員との情報交換等により、幼児期の子どもの望ましい発達を支える取り組みを進めていきます。

幼児期以降の教育への円滑な接続、連携の推進を図り、指導要録及び保育要録の小学校への送付を継続します。

学校名

1 子どもの「生きる力」を育むために幼児教育に期待していることは何かを教えてください。

2 幼児教育との円滑な接続に向けて近隣の幼稚園・保育園、認定こども園における幼児と児童との交流活動を行っていますか。また、その内容を具体的に教えてください。

☐ 定期的に行っている ☐ 不定期に行っている ☐ 行っていない

<具体的な内容>

3 幼児教育との円滑な接続に向けて近隣の幼稚園・保育園、認定こども園と教職員間の意見交換など何か連携活動を行っていますか。また、具体的に内容を教えてください。

☐ 定期的に行っている ☐ 不定期に行っている ☐ 行っていない

<具体的な内容>

4 幼児教育と小学校教育の円滑な接続を目指した連携を行う上での課題を教えてください。

ご協力いただき、ありがとうございました。